

平成 17 年度 第 1 回 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)
関係者会議 議事次第

日 時： 平成 17 年 5 月 14 日 (土) 16:00~18:30
場 所： 日本財団会議室 (東京都赤坂)
議 題： 平成 17 年度事業計画の検討
事務局報告等

司会：根本 匡文

・ 報告事項

1. 前回議事要旨の確認..... 資料 1
2. 事務局体制
事務局員の拡充
事務局補佐員の短期雇用
3. 事業報告
第 2 回聴覚障害学生高等教育アメリカ視察..... 資料 2, 3
北関東・東北地区聴覚障害学生交流会..... 資料 4

・ 協議事項

1. 平成 17 年度ネットワーク事業計画の検討..... 資料 5
第 2 回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告書の作成..... 資料 6
講義保障者養成モデル実施事業..... 資料 7
高等教育支援マテリアル開発事業..... 資料 8
テクノロジーシンポジウムへの参加..... 資料 9
特殊教育学会自主シンポジウム..... 資料 10
NTID 訪問団来日にもなう訪問候補地の募集について..... 資料 11
第 1 回聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム..... 資料 12
聴覚障害者支援担当者研修セミナー..... 資料 13



参加者名簿：

宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター 松崎丈

関東聴覚障害学生サポートセンター 倉谷慶子 / 吉川あゆみ

メディア教育開発センター 広瀬洋子

東京大学バリアフリー支援室 (伊藤聡知)

静岡福祉大学 (太田晴康) / 平井利明

群馬大学 金澤貴之

愛知教育大学 (都築繁幸) / 岩田吉生

日本福祉大学 大泉溥

同志社大学 土橋恵美子

広島大学 田中芳則

愛媛大学 高橋信雄 / 原田美藤

福岡教育大学 太田富雄 (順不同・敬称略、カッコは欠席)

筑波技術短期大学障害者高等教育センター相談・支援室聴覚系 WG 代表 根本匡文

筑波技術短期大学障害者高等教育センター相談・支援室聴覚系 WG 三好茂樹

筑波技術短期大学電子・情報学科情報工学専攻 河野純大

筑波技術短期大学障害者高等教育センター相談・支援室聴覚系 WG 白澤麻弓

オブザーバー 中野聡子

第 2 回 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)
関係者会議議事要旨

- 日 時： 平成 17 年 1 月 28 日 (金) 10 時 ~ 16 時
場 所： 日本財団 5 階会議室
議 題： 聴覚障害学生支援に関する全国調査中間報告
ネットワーク事業計画の検討・事務局報告
ネットワーク事業計画 (案)
今後の運営体制
共同研究テーマ・企画案
聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察
大学報告
- 参加者： 宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター 松崎丈氏
関東聴覚障害学生サポートセンター 倉谷慶子氏 / 吉川あゆみ氏
東京大学 伊藤聡知氏
メディア教育開発センター 広瀬洋子氏
静岡福祉大学 太田晴康氏
群馬大学 金澤貴之氏
日本福祉大学 大泉溥氏
同志社大学 土橋恵美子氏
広島大学 田中芳則氏
愛媛大学 高橋信雄氏 / 原田美藤氏
福岡教育大学 太田富雄氏
日本財団国際協力グループ BHN チームリーダー 石井靖乃氏
日本財団国際協力グループ BHN チーム 筒井智子氏
筑波技術短期大学障害者高等教育センター相談・支援室聴覚系 WG 根本匡文
筑波技術短期大学障害者高等教育センター障害者支援研究部門長 小林正幸
筑波技術短期大学障害者高等教育センター助教授 石原保志
筑波技術短期大学障害者高等教育センター助教授 三好茂樹
筑波技術短期大学電子情報学科情報工学専攻助手 河野純大
筑波技術短期大学障害者高等教育センター助手 白澤麻弓

開会に先立って、大野修一日本財団国際協力担当常務理事より挨拶がなされ、日本財団および PEN-International のこれまでの歩みについての紹介とともに、我が国におけるネットワーク構築に向けて尽力頂きたい旨の激励を頂いた。また、石井靖乃日本財団国際協力グループ BHN チームリーダーより、アメリカ NTID におかれている PEN-International 本部で収録された James Decaro PEN-International 代表からのメッセージ Video CD が紹介され、本ネットワーク設立に向けての期待および 3 月に行われるアメリカ視察について日本からの視察団に対する歓迎の意が語られた。

1. 聴覚障害学生支援に関する全国調査中間報告

白澤事務局担当より、2004年7月～8月に本ネットワークおよび筑波技術短期大学障害者高等教育センター聴覚・視覚障害学生の大学教育に関する相談・支援室聴覚系WGの協力によって実施された聴覚障害学生支援に関する全国調査の中間報告がなされた。報告内容は以下の通りである。

2000年以降に実施された国立大学協会(2001)やメディア教育開発センター(2001)、日本障害者高等教育支援センター(2004)等の調査結果より、全国の大学・短期大学の約半数に障害学生が在籍していること、および障害学生の大学進学をささえるサポートのうち、とりわけ全学的な支援体制の整備が進みつつあることなどが明らかになってきている。本調査では、これらの状況を見据えた上で、対象を聴覚に障害のある学生のみに絞り、彼らを取り巻く支援体制について詳細な状況を把握することを目的に実施された。

この結果、全国の大学・短期大学のうち約30%(過去3年間を含めると約40%)の大学・短期大学に聴覚障害学生が在籍しているが、その約半数でノートテイクによるサポートが実施されていること、このうち6割の大学・短期大学でノートテイクに対する謝金が支給されており、5割近い大学で事務職員によるコーディネーターおよびノートテイクに対する何らかの養成が行われていること、障害学生支援委員会や支援センターなど大学組織による公的なノートテイク派遣体制の整備も進みつつあるが、一方で依然として母親がノートテイクにあたるなど本人およびその周囲の人々の個人的な努力によって講義保障を行わざるを得ないような現状も残されていることなどが明らかになった。

一方、大学ごとの聴覚障害学生在籍数を分析したところ、現在聴覚障害学生が在籍している大学・短期大学の8割が3名以下という少数での在籍であり、10名以上の在籍がある大学は6校にすぎなかった。これに起因してか、過去3年間には聴覚障害学生が在籍していたが現在は卒業して在籍がない大学が50校ある一方、今年新たに聴覚障害学生を受け入れた大学が34校見られるなど、聴覚障害学生の支援に関するノウハウの蓄積がなされにくい状況が見て取れ、大学間の連携によるサポート体制の構築などノウハウをつなぎ止める工夫の必要性が感じられた。

本調査によって把握された現在一般大学に在学する聴覚障害学生の実数は約650名であり、その9割が学部への在籍で大学院生は5%(約30名)にすぎなかった。ただし、現在全国的に実施されているノートテイクを中心にした支援方法は、研究や議論が主体となる大学院生への支援としては適応しにくい部分が大きく、現実的には研究室単位で対応せざるを得ないことから、結果として大学院に在籍する聴覚障害学生の存在が把握されにくい現状があるとも考えられ、今後支援体制の幅が拡大されるにつれより実態が把握されやすくなるのではないかと推察された。

その他、聴覚障害学生の講義受講を支えるサポートとして、学部内およびコーディネーター・聴覚障害学生との密接な相談体制の構築、年複数回の関係者を交えた懇談会の実施、聴覚障害学生に対する手話コミュニケーション環境の提供、通訳者の資質向上のためのスキルアップ講座の開講など、より質の高いサポートへの取り組みも報告されており、今後聴覚障害学生支援が単なる情報保障者の配置にとどまらず、新たな段階へと発展して

以上の説明に基づき、各大学・機関より本ネットワークとして取り組んでいきたい事業案を募集したところ以下の提案がなされ、これらについては改めて予算案とともに提案書を提出頂くことが確認された。

聴覚障害学生支援に関する FD の開催（広瀬：NIME）

これまでメディア教育開発センター（NIME）で行ってきた SCS 講座（年 3 回開講 / ちなみに次回は 2 月 17 日）を、来年度は拡大して 1 日企画として開講したい。このコンテンツとして聴覚障害学生支援に特化した内容を取り上げられないか。講座は学生支援機構を会場として開講し、SCS でも配信予定。諸費用は NIME 負担。

聴覚障害学生支援に関する Web サイトの作成（広瀬：NIME）

NIME では「おたすけネット」の作成を検討中。教職員用、聴覚障害学生用など対象をいくつか設け、聴覚障害学生支援に関して抱く疑問に対し、情報を FAQ の形式で作成してサーバーにあげたいと思っているのだが、コンテンツの作成協力をいただけないか。Web 化等は NIME で担当可能。

ノートテイク養成研修プログラムモデル事業（太田：静岡）

ノートテイクの養成について、各大学で取り組みが進められているがまだ問題が多いのが現状。これまでノートテイクや養成に関わってきた現場の実務者の知恵を結集してモデルプログラムを作成したい。会議は月に 1 回程度。秋頃には成果をまとめた冊子を作成予定。この成果を元に、全国各地 5 箇所ぐらいを行脚し、研修会を開催予定。

内容：初めてノートテイクを導入するところ大学に対する教職員対象マニュアル

ノートテイクの導入と人員確保、養成等一連の流れについてノウハウの提案

ノートテイクの方法と事例、評価の方法

コンテンツの SCS 配信や DVD 化、オンライン化なども視野に入れて活動を進めてはどうか。

ノートテイク広域派遣活動プログラムモデル事業（太田：静岡）

学内の講義等へのノートテイク派遣については各大学の努力によって状況が改善されつつあるが、スクリーニングや社会福祉実習、教育実習等ではまだまだ問題が多い。そこで、これらの問題を解決するためのモデル的な広域派遣実施に向けて、仕組みや体制を検討するとともに実現に結びつけたい。成果は秋ごろ行政関係者を招いたシンポジウムにて報告予定。

内容：広域派遣の仕組みの検討（体制、費用負担、運営）・報告

モデル的な派遣活動の実施と課題の検討・報告

シンポジウムを通じた現状報告、行政・関係機関への広報・働きかけ

第 2 回アメリカ視察報告会の共同開催（倉谷：関東サポセン）

Faculty Development
PEN-International/NETAC/NTID
13-23 March 2005

	Sunday 13 March	Monday 14 March	Tuesday 15 March	Wednesday 16 March	Thursday 17 March	Friday 18 March	Saturday 19 March	Sunday 20 March	Monday 21 March	Tuesday 22 March	Wednesday 23 March
7:00		Hotel shuttle to PEN									
7:30		Welcome Breakfast & PEN overview PEN-Int'l Training Room Jim DeCaro Bill Clymer	Breakfast @ Hotel	Breakfast @ Hotel	Breakfast @ Hotel						
8:00			Hotel shuttle to Bldg. 12								
8:30			NTID Support Depts.		Hotel shuttle to LBJ						Depart for JFK
9:00		NETAC/PEPNet Discussions	Pat Rahalewicz Jim Biser		C-Print Technology Pam Francis LBJ 2590						
9:30											
10:00		LBJ 2590	Bldg. 12 Room 1115	Hotel shuttle to LBJ	Interpreter Training	New York University			LaGuardia Community College	Hunter College	
10:30		Pat Billies, Jane Nunes, Desiree Duda		Employment Acquisition Services	Rico Peterson LBJ 2590		"ON YOUR OWN" New York City Tours				
11:00		(NETAC) Denise Kavin (PEN-Int'l)		NTID Center on Employment LBJ 2590		Orientation and Tour			Orientation and Tour	Orientation and Tour	
11:30											Depart for Narita
12:00		Lunch break Dining Commons	Lunch Dining Commons	Lunch Dining Commons	Lunch Dining Commons						
1:00				NTID Counseling/Advising Services		Lunch					
1:30											
2:00	Arrive JFK NW018 (1:55)	Continued Discussions	Access Services Steve Nelson LBJ 2590	Robb Adams Anne Van Ginkel LBJ 2590		Adjourn		Business Meeting w/ Jim DeCaro	Discussions	Discussions	
2:30											
3:00		Wrap-up							Adjourn		
3:30		Shuttle to hotel from LBJ lobby	Teaching ASL to Interp. Students Leslie Greer LBJ 2590	Student Life Programming Ellie Rosenfield LBJ 2590	Shuttle to hotel				Student Panel E-501	Adjourn	
4:00			Teaching Interpreting Richard Smith, Lynn Finton LBJ 2590								
4:30				Shuttle to hotel from LBJ lobby	Depart for airport (RSE bus)						
5:00	Depart JFK JB 38 (5:20)		Hotel shuttle to hotel from LBJ lobby						Dinner/Pizza Party		
5:30			RSE bus to DeCaro's								
6:00	Arrive ROC (6:25) RSE bus to hotel		Dinner at DeCaro's Home								
7:00					Depart ROC JB 33 (7:15)						

第8回「聴覚障害学生と高等教育」フォーラム プログラム

開催日 : 平成17年5月14日(土) 10:00~15:00

プログラム

第1部「日本での支援の取り組みの現在」ポスター発表

10:00~11:50

- | | | | |
|----|---------------------------------|-------------------------|-----------|
| 発表 | 「講義通訳の質向上に向けての取り組み」 | 群馬大学 | 金澤貴之 |
| 発表 | 「音声同時字幕システムによる講義保障における中間支援者の役割」 | 群馬大学・東京大学・(株)ピー・ユー・ジー | 菊池真里・金澤貴之 |
| 発表 | 「FDの取り組みと成果」 | 日本福祉大学 | 篠田道子 |
| 発表 | 「入学時のサポートプログラム」 | 同志社大学学生支援センター | 土橋恵美子 |
| 発表 | 「高等教育のユニバーサルデザイン化」 | 広島大学 | 田中芳則 |
| 発表 | 「SCS研修について」 | 福岡教育大学 | 太田富雄 |
| 発表 | 「愛媛大学の取り組み～現状と課題～」 | 愛媛大学 | 高橋信雄・原田美藤 |
| 発表 | 「地域の派遣システムを活用した講義保障の運営」 | 愛知教育大学 | 岩田吉生 |
| 発表 | 「遠隔地聴覚障害学生支援システム」 | | |
| | その1 遠隔地リアルタイム字幕挿入システム | 筑波技術短期大学 | 三好茂樹 |
| | その2 遠隔地情報保障システム | 筑波技術短期大学 | 河野純大 |
| 発表 | 「障害者支援にかかわる教職員を支援するための研究」 | メディア教育開発センター | 広瀬洋子・大倉孝昭 |
| 発表 | 「支援者・教職員を対象とした障害理解プログラム」 | 宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター | 松崎 丈 |
| 発表 | 「外部からの高等教育支援コンサルティングの取り組み」 | 関東聴覚障害学生サポートセンター | 中島亜紀子 |
| 発表 | 「日本における聴覚障害学生高等教育支援の実態」 | PEPNet - Japan | 白澤麻弓 |

*全ての発表は、開催時間中、ポスター発表形式で同時に行われます。
尚、発表題目は当日変更する可能性がありますのでご了承ください。

第2部 PEPNet-Japan 第2回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告会

- ロチェスター工科大学(RIT)、国立聾工科大学(NTID)、ニューヨーク市3大学における
聴覚障害学生支援の視察報告 -

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------------------------|-------|
| 13:00 | 視察団代表挨拶 | 筑波技術短期大学 | 根本 匡文 |
| 13:10 | 第2回アメリカ視察の概略 | 宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター | 松崎 丈 |
| 13:25 | 報告 初めて支援組織を作る大学のために | 静岡福祉大学 | 平井 利明 |
| 13:45 | 報告 教員・職員に求める支援の在り方 | 日本福祉大学 | 藤井 克美 |
| 14:05 | 報告 聴覚障害学生の主体的な参加をめざした取り組み | 群馬大学 | 菊池 真里 |
| 14:25 | 将来への展望 | 筑波技術短期大学 | 白澤 麻弓 |
| 14:45 | 質疑応答 | | |

15:00 閉会

平成 17 年度 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 事業計画

．目的

全国の聴覚障害学生が在籍する大学および関係諸機関間のネットワークを形成し、高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生に対する支援体制の確立をはかる。

．活動内容

1. 聴覚障害学生支援体制の確立
 - 1) 共同研究による聴覚障害学生支援技術の開発
 - ①共通のテーマに基づく共同研究の実施
 - ②研究成果に基づく **FD・SD** 教材開発
 - 2) 聴覚障害学生に対する支援実践の蓄積とモデルの構築
 - ①聴覚障害学生支援実績の蓄積
 - ②支援実績の公開と成果の評価
 - 3) 聴覚障害学生支援に関する情報の蓄積
2. 支援・情報ネットワークの形成
 - 1) 地域の中核となりうる大学・機関間の連携強化
 - 2) 地域ネットワークの形成
 - ①各地域内他大学・関連機関との情報交換および連携体制構築
 - ②連携校・機関を窓口とする他大学へのスーパーバイズ
 - ③連携校・機関を拠点とした **FD・SD** の開催
 - 3) 全国の大学・機関に向けた情報の発信・支援
 - ①ホームページの立ち上げ
 - ②**ML**・ニュースレターを通じた情報交換
 - ③シンポジウムの開催
 - ④聴覚障害学生支援に関わるリソースの配信

．事業計画

連携大学の協力により、以下の事業に着手する。

- 1) 講義保障者養成モデル実施事業
モデル事例の構築を目指して、国内の各大学における事例を収集・整理し、地区を限定して情報保障者養成事業に着手する。連携大学・機関間の共同にて各種企画を開催し、他の大学に対する能動的な働きかけを実施する。
- 2) 高等教育支援マテリアル開発事業
これから聴覚障害学生支援に乗り出そうとする大学に対して、聴覚障害学生支援の基本的な知識を普及し、個々の大学内でのサポート体制構築を促す資料を作成する。また、ホ

平成 17 年度ネットワーク事業計画の検討 第 2 回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告書の作成 講義保障者養成モデル実施事業 聴覚障害学生支援マテリアル開発事業 NTID 訪問団来日にとまなう訪問候補地の募集		
6 月 22 日 ～7 月 1 日	NTID テクノロジーシンポジウムへの出席	NTID 負担 白澤
6 月 23 日	メディア教育開発センター SCS 研修	NIME 負担 根本
7 月～8 月	ホームページの整備	河野・白澤
9 月 23 日 ～25 日	自主シンポジウム「聴覚障害学生高等教育支援ネットワークの構築 に向けて」(日本特殊教育学会第 43 回大会内)	各自研究費 根本
10 月	科研費申請	三好・金澤
10 月中旬 ～下旬	NTID 訪問団来日 (シンポジウムへの出席、連携校視察)	NTID 負担 白澤・石井
10 月 8 日	第 1 回聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム (技短) ～利用者から発信する情報保障のあり方～ 養成事業成果報告 当事者・コーディネーター・通訳者部会の実施	30 万円 白澤 金澤
9 日	第 2 回関係者会議 (技短) デカロ氏出席 事業報告 (自主シンポジウム、シンポジウム) 来年度事業計画について (モデル校、シンポジウム開催校の選定) 連携校視察	50 万円
12 月	聴覚障害学生支援担当者研修セミナー (日本学生支援機構) 「高等教育機関に学ぶ聴覚障害学生への支援」 ～大学は、教職員は何をなすべきか? 人的サポート・IT 支援・情報技 術～	NIME 負担 根本
1 月	アメリカ研修 (事務局: アウトリーチの実際 NETAC-サイト、サ イトー各大学、大学内研修)	科研費等 白澤
2 月	第 3 回関係者会議 (日本財団)	35 万円

・予算案

<収入の部>

PEN-International 本部より	¥4,200,000
昨年度繰越金	¥230,901
合計	¥4,430,901

第 2 回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告書作成（案）

1. 概要

視察中に参加した各セッションの記録原稿を共有するとともに、第 1 回アメリカ視察報告書（2004 年度）を加筆修正する形で報告書を作成する。

2. 作成要領

1) 記録原稿：

各セッション聞いた説明やディスカッションの内容をできるだけ細かく記録し、視察参加者および PEPNet-Japan 関係者内で共有する。

締め切り：4 月 30 日（土）

提出先：ML 宛てに送付

形式：特に指定無し

2) 報告書原稿

第 1 回アメリカ視察報告書を元に、今回新たに得た情報を加筆し、必要に応じて修正を加えて 1 冊の報告書としてまとめる。執筆担当者を明らかにするため、第 1 回アメリカ視察報告書に掲載されている内容はできる限りそのまま生かし、加筆の必要な部分は新たに章・項を加える形で執筆することとする。また、第 1 回視察報告書の内容で変更が必要な部分に関しては、執筆者の了解の元加筆修正し、当該項目は共同執筆という形で扱うこととする。

執筆要領

原稿締め切り：6 月 30 日（木）

提出先：白澤 shirasawa@a.tsukuba-tech.ac.jp

字数：1 ページ 1200 字程度とし、構成に記載されているページ数を目安に作成

図表がある場合には適宜字数を減らしてください。

形式：本文と図表は分けて提出

本文 テキストファイル

図表 ワード貼付または画像ファイルとし、図表タイトルと簡単な説明文をつける。

構成

<本編>

NTID における学生サービスの概要

ロチェスター工科大学（RIT）における聴覚障害学生サポートサービスの概要

（Co-op プログラム、寄宿舎プログラム等を中心に加筆 全体で 14～16 ページ）

（静岡福祉大学 平井利明先生）

ロチェスター工科大学（RIT）と米国立聾工科大学（NTID）学生寮（寄宿舎）の視察

PEPNet（Postsecondary Education Network）および NETAC の概要

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 事業申請書

申請代表者	太田晴康	所属	静岡福祉大学
テーマ	講義保障者養成モデル事業		
目的 (当該事業の目的を記述の上、この事業がPEPNet-Japan全体の目的のどの項目にあてはまるかをチェックして下さい)	<p>高等教育機関における現在の講義保障(1)体制は決して十分とはいえない。その理由の一つに講義保障者数の不足がある。加えて、パーソナルサービスともいえる講義保障は、利用者の個別の要望ならびに講義の専門性に応えるための資質及び能力を必要とする。</p> <p>そこで本事業は、専門性を有する講義保障者の養成カリキュラムを開発するとともに、高等教育機関自らが一定のカリキュラムに沿って優れた講義保障者を養成することを可能とする指導者養成講座を開催し、講義保障体制を構築することを目的とする。</p> <p>1 正確には講義における音声情報を何らかの方法によりメディア変換し、聴覚障害を中心とする障害学生に伝達するための仕組み。ここでは講義保障と総称する。</p> <p>聴覚障害学生支援体制の確立(支援実績の蓄積とモデルの構築/共同研究を通じた支援技術の開発/聴覚障害学生支援に関する情報の蓄積)支援・情報ネットワークの形成(各地域の中核となりうる大学・機関の連携強化/地域ネットワークの形成/他大学・機関に向けた情報の発信・支援)</p>		
事業内容と計画 (事業全体で取り組む内容と大まかなタイムスケジュールを記入してください。)	<p>以下の計画に沿って、講義保障者モデル事業を実施する。</p> <p>(平成17年度計画)</p> <p>1. モデル事例の収集と分析 / 2005年6月～8月</p> <p>連携大学の協力により、すでに講義保障者の養成を実施している高等教育機関の養成カリキュラムを収集し、講義保障者の養成目標・達成目標ならびに必要とされる専門性(専門的知識と技術)を整理、分析する。</p> <p>2. 養成カリキュラムの作成と講習プログラムの作成 / 2005年8月～9月</p> <p>専門性を有する講義保障者を養成するためのカリキュラムを作成する。作成後、同カリキュラムに沿って、各地の高等教育機関自らが講義保障者を養成することを可能とする講義保障者講習プログラムを作成する。養成カリキュラムは指導者養成講座後に関連サイトで公開すると共に印刷媒体として発行する。</p> <p>3. 指導者養成講座の実施 / 2005年10月～2006年2月</p> <p>上記講習プログラムの実施に必要な指導者を養成するための指導者養成講座を全国規模(東西2か所)で実施する。講座の様子はビデオ録画し、編集(外注)後、頒布する。</p>		

講義保障者養成モデル実施事業

17年度 2005														18年度 2006													
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
事例収集分析			役割分担決定	事例収集	事例分析																						
カリキュラム作成			役割分担決定		作成作業	印刷媒体発行 サイトアップロード																					
プログラム作成			役割分担決定		作成作業																						
指導者養成講座			役割分担決定	← 準備 →		東日本会場実施	← 準備 →		西日本会場実施		ビデオ編集作業	ビデオ媒体発行															
講義保障システム											役割分担決定	講義保障者登録	派遣実施														
シンポジウム											役割分担決定	実行委員会	実行委員会	実行委員会	シンポジウム実施												
会議		関係者会議	役割分担	作成作業	作成作業	講座実施						講座実施	役割分担	準備作業	準備作業	準備作業	シンポ実施										

(2) モデルプランシート 2005 年後半から具体的に検討。

1) 学内における聴覚障害学生サポート体制

情報保障の運営の基本条件, 情報保障サポートの運営形態, 学内サポート体制作りの流れ

2) 事例紹介

入学時・授業時などの各段階における支援方略・技術が紹介されている大学資料

5月14日午前フォーラムなどで発表された資料をリソースとして活用したい。

3) 評価 (チェック) シート

高等教育支援の各領域にかかわる運営・活動を評価するシート。

例: ノートテイク

利用者からの評価項目

- ・読みやすい筆記用具を使っていますか?
- ・文字の大きさは適切ですか?
- ・文意・内容が伝わりますか?
- ・ノートテイクの態度はどうですか? など

教職員・担当養成講師による評価項目

- ・表記の点で読みやすいノートですか?
- ・講義のポイントを伝えていますか?
- ・重大な意味の取り違えはないですか? など

5. 事業計画

TipSheet の作成 2005 年度前半から開始

5 月末 テーマ決め・役割分担・執筆者選出

6 月 執筆依頼

6 月～8 月 原稿執筆

8 月末 原稿締め切り

9 月～12 月 編集作業

1 月～3 月 Web 化

モデルプランシートの作成 2005 年度後半から開始

8～9 月 テーマ決め・役割分担・執筆依頼

9 月 原稿執筆

11 月末 原稿締め切り

12 月～2 月 編集作業

2 月～3 月 Web 化

PEN-International ビジネスミーティング・NTID テクノロジーシンポジウムへの出席

目的：アメリカ合衆国ロチェスター工科大学にて開催されるテクノロジーシンポジウム
 に出席し、先端のろう教育事情について情報収集を行う。また、PEN-International
 各国代表者が招聘されるビジネスミーティングにおいて、昨年度の成果について報
 告するとともに、今後の聴覚障害学生高等教育のあり方について討議する。

期間：2005年6月22日（木）～7月1日（金）

派遣地：アメリカ合衆国ニューヨーク州ロチェスター市 ロチェスター工科大学

参加者：大沼直紀学長（筑波技術短期大学長）

太田富雄教授（福岡教育大学障害児治療教育センター）

金田博教授（筑波技術短期大学デザイン学科）

荒木勉助教授（筑波技術短期大学機械工学科）

河野純大助手（筑波技術短期大学電子情報学科情報工学専攻）

白澤麻弓助手（筑波技術短期大学障害者高等教育センター）

日程表：

6月22日（水）	日本発 - ロチェスター着	
6月23日（木）	PEN-International 概要説明	ワークショップ：
6月24日（金）	PEN-International ビジネスミーティング 8:00～12:00 各国代表者による2004年度活動報告 13:30～17:30 話し合い	ろう者の英語学習 ↓
6月25日（土）		
6月26日（日）		
6月27日（月）	テクノロジーシンポジウム	
6月28日（火）	Instructional Technology and Education of the Deaf Symposium	
6月29日（水）	↓	
6月30日（木）		ロチェスター発
7月1日（金）	日本着	

各プログラムの詳細は下記 Web サイトを参照のこと

ワークショップ (<http://www.rit.edu/~thnktank/>)

テクノロジーシンポジウム (<http://www.rit.edu/~techsym/>)

国立聾工科大学（NTID）訪問団来日にもなう訪問候補地の募集について

今秋、国立聾工科大学（NTID；米国ロチェスター市）にて長年教鞭を取り現在指導的立場にあられる T. Alan Hurwitz、James J. DeCaro 両氏が、日本における聴覚障害学生支援の状況について視察するため来日されることになりました。これにもない、現在聴覚障害学生を積極的に受け入れ先駆的な取り組みを行っている日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）連携校・機関の中から訪問候補地の募集を行いたいと思います。両氏ともに訪問団の来校が大学にとっての支援体制構築の弾みになればと望んでおられますので、この機会を生かした企画案とともに積極的な応募を頂ければ幸いです。

募 集 要 項

1．訪問者

T. Alan Hurwitz 氏 Vice President and Dean, NTID

James J. DeCaro 氏 Director, PEN-International, NTID

2．日程（変更の可能性あり）

10月8日（土）第1回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

10月9日（日）第2回関係者会議

10月10日（月）～12日（水）大学視察

3．応募資格

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）関係者会議の構成大学・機関であること。両氏の訪問を学内の聴覚障害学生支援体制構築に生かすことを望んでいる大学・機関であること。

4．申し込み方法

大学名、担当者名（所属、連絡先）、両氏訪問日の視察内容および日程案を記載の上、事務局白澤（shirasawa@a.tsukuba-tech.ac.jp）まで E-mail にて送付してください。

5．締め切り

2005年6月末

6．選定方法および結果発表

提出いただいた書類を元に、訪問団の来校による当該大学・機関内での聴覚障害学生支援体制構築への効果が大きく、今後この成果を元に我が国における支援ネットワーク構築

第1回聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

目的：高等教育機関における聴覚障害学生支援について常に世界をリードし続けてきた米
 国ロチェスター工科大学の取り組みと、聴覚障害学生自身による我が国の現状についての
 評価を元に、今後我が国が目指すべき聴覚障害学生支援モデルのあり方について模索する。
 同時に、大学関係者および聴覚障害学生、支援者といった聴覚障害学生支援に取り組む関
 係者が一堂に会し各大学の取り組みについて情報交換を行うことによって、今後の大学間
 ネットワークの形成のための基盤作りを行う。

日時：2005年10月8日（土）10:00～17:00

会場：筑波技術短期大学天久保キャンパス講堂（茨城県つくば市天久保 4-3-15）

プログラム：

<第1部> 10:00～11:45

懇談会 聴覚障害学生、大学教職員、情報保障者の3部会に分かれ、各大学の取り組みや
 現在抱えている問題・課題等についてディスカッションを行う

<昼食> 11:45～13:00

<第2部> 13:00～17:00

開会式 挨拶 大沼直紀筑波技術短期大学長

挨拶 国立聾工科大学(NTID)学部長 Alan Hurwitz 教授

PEPNet-Japan 設立趣旨説明

講演会 「ロチェスター工科大学における聴覚障害学生支援（仮）」（1時間）

国立聾工科大学(NTID)PEN-International 代表 James J. DeCaro 教授

シンポジウム「利用者から発信する情報保障のあり方」（2.5時間）

モデル養成事業中間報告

聴覚障害学生から見た障害学生支援システム

これからの聴覚障害学生支援のあり方

主催：日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）

筑波技術短期大学

後援：日本財団

問い合わせ先：日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）事務局

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-3-15

筑波技術短期大学障害者高等教育センター

聴覚・視覚障害学生の大学教育に関する相談・支援室 聴覚系 WG 内

TEL/FAX 029-858-9429（担当：白澤麻弓）

